

地域の課題（身近な困り事など）の解決に向けた意見交換資料

No	神楽まちづくり推進プログラムの分野	地域の課題 （身近な困り事など）	課題の要旨	課題解決を妨げる要因	課題解決に向けた第 1 歩	第3回協議会の協議内容
1	福祉，子育て，健康づくり，地域の支え合いの強化	歩道（通学路）の除雪	ブルドーザーが雪を置いていくなど，歩道に雪が堆積したままとなり，小学生が登下校時に車道を通行しなければならないため危険。	除雪事業者の作業方法等。	市の担当部局（土木事業所）に相談する。	
2		小学生登下校時の見守り	神楽岡小学校の登下校時において，児童の約 7 割が踏切や，国道を横断すること，また，通学路にある郵便局への路上駐車等，危険が多いにも関わらず，保護者等の見守りが少ない。	共働きの保護者が多く見守りに参加しづらい。 通学路上の神楽岡郵便局（神楽岡 6 条 14 丁目 2-9）に駐車場が少ないため路上駐車が多く，通学に支障をきたしている。	保護者や，地域住民へ協力の呼びかけ等を強化する。	学校が実施している見守りボランティアの募集で対応中。通学路の路上駐車については，郵便局，学校，PTA，市民委員会で対応について協議を進めていく。
3		高齢者等の外出時の交通アクセス（路線バス）	氷点橋，クリスタル橋の完成に伴い交通の便は良くなったが，路線バスが減便し不便になった。	公共交通利用者数の減少や，運転手不足等の交通事業者の環境の変化。	不便な地域の現状確認。 市の担当部局（交通空港課）に相談する。	運行経費の節減が見込める小型バスに変えてもらうとしても，相手が民間企業のため，採算が合わなければ解決は困難な案件。行政への相談も難しい。
4		高齢者（独居者）困り事の把握	高齢者（独居者）になると困り事が増えるので，その把握をするにあたり，高齢者へのアンケート調査を神楽民児協で実施しており，まち協にも協力してほしい。	まち協の対象地域が広いため，対象者の選定，アンケートの配布・回収作業の人員不足。	地域や関係団体（市民委員会，地区社協，包括支援センター等）への相談。	
5		高齢者の生存確認	高齢者になると，外出しながらなど孤立することが多く，地域住民同士でも，お互いの生存の確認ができない。	近所付き合い（人間関係）の希薄化。 外出しないことによる，地域住民とのコミュニケーション不足。	近隣住民同士の声掛けなどにより，コミュニケーションを図る。	高齢者等の見守り活動については，社会福祉協議会，市民委員会，町内会において，既に対応している。また，近所同士の付き合い方や，葬儀形態等，時代の変化と共に関係性が希薄になっていて，コミュニケーションを図ることが難しい。
6	基本的な生活環境の確保，環境保全，事故・犯罪の防止，防災	国道沿いの街路樹等の雑草	国道 2 3 7 号線道路沿いの街路樹の下や，歩道と車道の間の縁石部分について，雑草が生い茂っており景観を損ねている。	作業人員の確保，道路管理者との調整が必要。	道路管理者に相談する。	作業量を考えた場合，まち協委員だけで除草作業を行うことは困難なため，市民委員会や町内会に協力を依頼し，当番制等のプロジェクトを組まなければ対応は困難であるが，市民委員会等は，煩わしい業務が増えると感じて協力を断る可能性が高いと思われ，実施は困難。
7		町内会で実施する雨水管汚泥除去作業	町内会で自主的に行っている，南校川周辺の雨水管の汚泥除去作業について，マンホールの蓋が重く高齢者等が作業を行うには危険。	実施責任の所在があいまい。 （本来どこが担当すべき作業なのか）	市の担当部局（土木部）に相談し，市と町内会（市民委員会）で対応協議する。	市担当部局に現状を説明し解決してもらう。
8	郷土愛や誇りの醸成・コミュニティ活性化（世代間交流）	町内会役員の高齢化	町内会役員の高齢化が進んでおり，若い人たちとの世代交代をどのように図るか。	若い世代は共働きの多く，事業や会議等に参加しづらい。 役員等の役割の周知不足。 世代による意識の違い。	町内会活動の参加を呼びかけ，若い世代とコミュニケーションを図る。町内会の意義や役割等を周知する。	近年の生活形態などの変化により，町内会にお世話になることが減り，近所同士のコミュニケーションが図れなくなったことが大きな要因。町内会で会話をしやすくする機会を設けることが一番の解決方法。